

人権の花をうえました

人権啓発活動の一環として、今年も人権擁護委員の皆様をお迎え、「人権の花運動」に取り組みました。学校を代表して栽培委員会の子どもたちが、ひまわりの種を一つ一つ丁寧に植えました。

人権擁護委員の皆様からは、ひまわりの種に込められた願いや、人を大切にすることの意味についてお話をしていただき、子どもたちは真剣な表情で耳を傾けていました。

ひまわりは、太陽に向かってまっすぐに伸び、大きな花を咲かせることから、「あこがれ」「希望」「前向きな心」などの意味を持つ花として知られています。また、「あなたを見つめる」「光輝く」といった花言葉もあり、互いを認め合い、思いやりの心を育てる人権教育の願いにも重なります。

今回植えた小さな種が、これから太陽の光を浴びながら大きく成長していくように、子どもたちの心の中にも、相手を思いやる気持ちや、一人一人の違いを認め合う心が育ってほしいと願っています。

夏には、色鮮やかなひまわりが学校を明るく彩ってくれることでしょう。その花々を見るたびに、「みんなが大切な存在であること」や「互いを尊重し合うこと」の大切さを思い出し、笑顔あふれる学校づくりにつなげていきたいと思えます。

